

発現する

アート・ドキュメンテーション学会2007年度年次大会
2007 Annual Conference of JADS: Japan Art Documentation Society
主催: アート・ドキュメンテーション学会 / 国立新美術館

シンポジウム

発現するドキュメンテーション 蓄積と検索から表現へ

Documentation as apparition: from storage and retrieval to 'expression'

2007年6月23日(土)
13:30-17:30 [開場13:00]
於: 国立新美術館 3階講堂
<http://www.nact.jp>
●東京メトロ千代田線乃木坂駅6番出口(美術館直結)

第2日 6月24日(日)
10:00- 公募研究発表会
14:30- 国立新美術館情報資料関連施設見学会

収集し組織化してクエリー(query、問い合わせ)を待つ、クエリーが投げかけられなければ、動かない:動き出さないデータベース、ではなく、集積され組織化されるもの、それ自体:総体が、自ら発現し表現をめざすようなドキュメンテーション。観る者が、集積の個々と全体を把握しつつ感応できるようなドキュメンテーション、は可能か、意味はあるか。2007年1月誕生の5番目の国立美術館、国立新美術館において、アート・ドキュメンテーションのあらたな可能性に向けて「発現(apparition)」をキーワードにシンポジウムを開催いたします。



講師/パネリスト

安齋 利洋
システムアーティスト
「カンプリアゲームー 作動するテキスト」

前田富士男
慶應義塾大学文学部教授
同大学アート・センター所長
「メタファーとカップリング
ーアート・アーカイヴにおける時空間」

丸川 雄三
国立情報学研究所特任准教授
独立行政法人国立美術館情報企画室客員研究員
「連想がつなく文化財の情報発信」

金子 郁容
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
同大学湘南藤沢メディアセンター所長
「想起する街ー図書街プロジェクト」

イントロダクション・司会

水谷 長志
独立行政法人国立美術館情報企画室長

ドキュメンテーション